

はじめに

校長 鈴木 裕二

これまでの本校の研究のあゆみを保管されている研究紀要から可能な限り振り返ってみます。そして、過去の研究主題を以下のとおり並べてみると、これまでの本校の研究の取組状況が見えてきました。

| | |
|-------------|------------------------------------|
| 平成 27 年度 | できる喜びを味わう体育学習 ～支援の工夫を通して～ |
| 平成 28 年度 | かかわり合い、高め合う体育学習 |
| 平成 29 年度 | 主体的に学び、見通しをもって考える子 ～生活科・理科の学習を通して～ |
| 平成 30・31 年度 | 伝え合い、学び合う子ども ～国語科の学習を通して～ |
| 令和 2・3 年度 | 自分の考えを書くことで伝えられる子ども ～国語科の学習を通して～ |
| 令和 4 年度 | 進んで考え、互いに学び合う子ども |

平成 27 年度は、体育科において、コーディネーショントレーニングを取り入れ、技能の習得と運動量の確保に重点をおき、平成 28 年度は、同じく体育科において児童が思考力や判断力を働かせる工夫をしていました。この 2 年間は、大田区体力向上モデル校の指定を受けています。背景として、この年度から東京 2020 オリンピック・パラリンピックに向け、オリパラ教育が年間 35 時間始まり、機運が盛り上がっていたといえます。

平成 29 年度は、3 月に現学習指導要領が公示され、「主体的・対話的で深い学び」がキーワードになった。「子どもに実験の楽しさを味わわせたい」「生活科でたくさんの気づきを与えてあげたい」という教員の熱い思いから始まったと紀要にあり、特に教科の特性が生かせる理科・生活科で行ったことが分かります。

平成 30・31 年度は、「伝え合い」「学び合い」をテーマに「自分の考えを、自信をもって、話せるようになってほしい」「友達と関わりながら学ぶ楽しさを知ってほしい」という願いを込めて取り組んでいました。国語科の「話すこと」「聞くこと」を中心に進めていました。

令和 2・3 年度も引き続き国語科の「書くこと」において、「自分の考えを書くこと」について「語彙力を豊かにし、書き方を身に付ける言語活動の充実」「書く必然性を生む学習内容の工夫」「書いたものを共有する場の工夫」を研究し、2 年次には日常生活に活用できるよう進め、「書く意欲」を高める研究を行いました。

令和 4 年度は、「新しい発想」を取り入れつつ、GIGA スクール構想で導入されたタブレット端末の活用方法に挑戦し、対話的な学びを目指し全教員が授業を公開し、多くのアイデアを出し合い話し合ったと記録に残っています。しかし、コロナ禍だったこともあり、令和 2～4 年度の 3 年間、通年では講師をお呼びしていませんでした。

そこで、令和 5 年度です。昨年度のうちに研究主題が「粘り強く課題に向き合い、自ら考える子ども～ICT 機器の活用を通して～」に決定し、タブレット端末の有効活用に重点をおき、授業改善、教材開発を行いました。4 年ぶりの年間講師として、大田区教育委員会事務局指導課 おおた ICT 教育推進専門員 遠藤 康弘先生にご依頼し、年間 3 本の研究授業を行いました。ICT 支援員と連携して、ICT 研修を複数回実施し、指導力向上に努めました。また、授業観察の視点として、指導訪問では「ICT の効果的な活用」、2 学期の管理職授業観察では「校内研究の研究主題」として意識して取り組んだ結果、教員のタブレット端末活用の日常化とともに、児童がタブレット端末を使いこなせるようになってきました。一つの成果として、日本教育工学協会より「2023 学校情報化優良校」に認定されることができました。3 本の研究授業の手だてとして、「効果的な ICT の活用方法」「課題設定の工夫」「振り返りの充実」「意欲を高める導入の工夫」を考え取り組んできた結果、研究主題にある粘り強く課題に向き合い、自ら考える子どもが増えてきたことを実感しています。

結びにあたり、本校の研究を常に励まし、あたたかく関わり、国語科、生活科、体育科の研究授業に懇切丁寧にご指導くださったおおた ICT 教育推進専門員 遠藤 康弘先生に心よりお礼申し上げます。